



2026年5月14日

各位

東京都中央区晴海一丁目8番10号
株式会社メンバーズ
代表取締役社長 高野明彦
(コード番号：2130 東証プライム市場)
問い合わせ先：上級執行役員
ビジネスプラットフォーム本部長 米澤真弥
TEL：03-5144-0660

通期連結業績予想値と実績値との差異および 通期個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

2026年1月22日に公表しました2026年3月期通期連結業績予想値と、本日発表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。また、当社は2026年3月期からの連結決算(IFRS)への移行に伴い個別業績予想の開示を省略しておりましたが、2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の通期個別業績について、前期実績値との差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

記

I. 2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異について

1. 2026年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A)	百万円 24,400	百万円 1,400	百万円 1,390	百万円 930	百万円 930	円 銭 72.80
今回発表実績値(B)	24,424	1,600	1,641	1,213	1,213	94.92
増減額(B-A)	24	200	251	283	283	
増減率(%)	0.1	14.3	18.1	30.5	30.5	
(ご参考)前期実績(2025年3月期通期)	22,329	493	472	349	349	27.40

(注)1. 上記の業績予想値および実績値は、IFRSに基づき算出しております。

2. 前回発表予想の「基本的1株当たり当期利益」は、2026年3月期中間期の期中平均株式数12,775,299株に基づいて算出しております。
3. 当社は、2026年3月期第4四半期連結会計期間より連結決算へ移行し、2026年3月期より連結財務諸表を作成しております。前期実績値は個別実績値(IFRS)を参考値として記載しており、対前期増減率は参考値である個別実績値(IFRS)の比較により算出しております。

2. 差異の理由

当社グループは、「中期的な成長に向けた戦略」に基づき、2027年3月期における高収益・高成長事業の確立へ向け、DX現場支援ポジションへの転換加速と現場中心の全員参加型経営の確立を推進してまいりました。

当連結会計年度の売上収益は24,424百万円(前期比9.4%増)、営業利益は1,600百万円(前期比224.6%増)、税引前利益は1,641百万円(前期比247.0%増)、当期利益は1,213百万円(前期比246.9%増)となりました。

売上収益は前期比 9.4%増、重要指標としている付加価値売上高(※1)は 23,507 百万円(前期比 10.5%増)となり、ともに過去最高を更新しました。これは UIUX デザインやプロダクト・サービス開発、データ活用支援、PMO(※2)サービスを中心に、より高い需要が見込まれる DX 領域への転換を戦略的に推進したことによるものです。これにより、当連結会計年度における DX 領域の付加価値売上高成長率は前期比 32.6%増と高成長を継続し、第4四半期会計期間においても、全社の付加価値売上高に占める DX 領域の比率は 54.2%(前年同期比 8.7 ポイント増)と順調に拡大いたしました。

利益面につきましては、採用の抑制による稼働率の改善(全体稼働率 83.1%、前期比 6.6 ポイント増)に加え、高付加価値な DX 領域への転換が順調に進展したことで収益性が順調に改善し、当連結会計年度における売上総利益率は 26.4%(前期比 5.5 ポイント増)となりました。将来への投資として DX 人材の確保、教育体制の拡充を実施し、売上収益に対する販売費及び一般管理費の比率は 19.8%(前期比 1.1 ポイント増)となりましたが、収益性の改善によりこれらの投資コストを十分に吸収いたしました。

以上の結果、売上収益は概ね計画通りの推移となりましたが、DX 領域への転換による収益性の改善および稼働率の向上が当初の想定以上に進展したことにより、各段階利益が前回発表予想を上回りました。

(※1)付加価値売上高:売上収益から社外原価(外注や仕入)を差し引いた社内リソースによる売上高。

(※2)PMO(Project Management Office):企業や各組織のプロジェクトを円滑に進めるために、部署の枠をこえて横断的にプロジェクトマネジメントを統括する部門や体制を指す。プロジェクトを統括し、様々な意思決定を担う立場である PM(Project Manager)に対し、PMO は PM が円滑に意思決定できるよう情報収集や関係各所との調整を行い、PM のプロジェクトマネジメントを支援する立場。

II. 通期個別業績の前期実績値との差異について

1. 2026年3月期通期個別業績の前期実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値(A)	百万円 22,329	百万円 590	百万円 598	百万円 420	円 銭 32.98
当期実績値(B)	24,335	1,615	1,628	1,232	96.38
増減額(B-A)	2,005	1,024	1,029	811	
増減率(%)	9.0%	173.7%	172.1%	192.7%	

(注)1. 当社は、2026年3月期第4四半期連結会計期間より連結決算へ移行し、2026年3月期より連結財務諸表を作成しております。

2. 個別業績における財務数値については、日本基準に基づいております。

2. 差異の理由

通期連結業績予想の実績値との差異の理由と同様であります。

以上